



崎山 華英 議員



### 5類移行後の活動の考え方は？

**問** これまで新型コロナウイルス対策として市内イベントや学校行事の縮小・中止が相次いできたが、5類となった今後はどのように考えているか。

**答** 今後は市民と事業者、市が一体となったチーム旭でコロナ前に勝る、人と人とのつながりや交流が図れるようなイベントや学校行事の開催を目指したい。

### 病中児保育の実施について

**問** 核家族が増えている中で幼児を育てる親の就労支援として病中児対応保育は必須と考える。市内小児科の減少も課題となっている状況を加味し、病中児保育併設の小児科を誘致することはできないか。

**答** 市内小児科医が減少していることは課題であると認識しているが、県全体でも小児科医が不足しているため病児対応型の小児科クリニックの誘致は大変難しいと考える。病児保育は病院併

設型・保育所等併設型のどちらも医療機関の協力が不可欠なため実施は難しいが先進事例を参考にしながら調査・研究していきたい。

### ランドセル以外の選択肢は？

**問** ランドセルについて、近年価格が高騰していることで家庭に大きな負担がかかるだけでなく、重さにより子どもへの健康被害が起こった事例もある。最近ランドセルよりも安くて軽い通学用バッグとの選択が増えてきたようだが、本市の小学校で使用が認められているランドセル以外の通学用バッグはあるか。あるならもっと周知できないか。

**答** 市内小学校では児童の安全面を重視しながらランドセル以外のバッグについても相談に応じている。現在も通学時に学用品が入り、両手の自由が利くリュック型バッグや箱型バッグ、デイバッグ等は使用可能としているので、入学説明会の資料等で保護者へ周知できるように検討していきたい。

### その他の質問事項

- コロナ禍の移住促進について
- 学用品準備の負担軽減・就学支援について
- 未成年の性被害について

### 協働の促進について

**問** 区や自治会への加入率は、世帯が増加しているのにも関わらず、直近5年間で3・9%も減少し、令和4年4月の時点で59・4%になった。4割以上の市民が区等に参加していない現状から、今後も区等を通じる必要性があるのかと疑問を感じる方が多い。私は区や自治会は続けるべきであると考え。震災や災害等の非常時に行政からの指示や援助を受けける組織として必要不可欠であると思う。しかし、今のままでは若い世代の方には受け入れられない。今後も組織を維持継続していくのであれば、推薦する役員の人数を減らしたり、報酬制にしたりする等の対策が必要であると考え、市長の見解を伺う。

**答** 区等の地域コミュニティの醸成が旭市全体の活力の源になると考えており、将来に向けて存続すべき組織であると強く思う。区や自治会の在り方も時代の変化に合わせて対応できるように、市としてもサポートに努める。

### 居住環境の充実について

**問** 銚子連絡道路の開通が現実になり、市民の交通の利便性向上、物流の円滑化、観光客の増加等、大いに期待がもてる。豊畑地区に開設されるインターチェンジ周辺の土地利用について、どのような状態にするのが本市にとってベストなのか。農地のままが良いのか、開発を進めていくのか、この地域をどうデザインしていくか、どう活用していくかで旭市の未来が決まるといっても過言ではない。早急に検討委員会等を立ち上げて取り組むべきであると思うが、見解を伺う。

**答** 銚子連絡道路の匝瑳市旭市間は令和4年度に事業化されたばかりで、開通が令和13年度の予定である現時点では、具体的な整備計画はなく、検討委員会等の設置予定もないが、県からの助言、他自治体の状況や取り組みを参考に開発や委員会等の必要性について研究していく。

### その他の質問事項

- 多世代交流施設おひさまテラスのこれまでの実績と今後の展望について



常世田 正樹 議員

